

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：若手研究（B）	
研究期間：2006～2008	
課題番号：18720188	
研究課題名（和文）	一九世紀中国の社会変動に対する清朝の政策と旗人官僚 —ある旗人高官の家族を例に—
研究課題名（英文）	Qing government and Manchu banner officers in the 19th century China: A case study of the Wanggiya clan.
研究代表者	
古市 大輔（FURUICHI DAISUKE）	
金沢大学・歴史言語文化学系・准教授	
研究者番号：40293328	

研究成果の概要：

本研究では、清代に著名な官僚を多数輩出した旗人の名家であった完顔氏一族を取り上げながら、19世紀後半の中国四川省における清朝の諸政策とその政策を担った旗人官僚の位置・役割について検討した。この検討によって、清代後期における完顔氏一族の歴史の一齣を紐解くことができたほか、その一員であった崇実が地方官僚として活動した19世紀後半の四川省における清朝の行政処理過程と、その過程のなかにおける崇実の旗人官僚としての位置・役割について、その一端を解明することができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,100,000	0	1,100,000
2007年度	700,000	0	700,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	150,000	2,450,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史，清朝，旗人官僚，社会変動，19世紀

1. 研究開始当初の背景

まず、古市大輔「清代後期の盛京行政とその変容」(『史学雑誌』105-11, 1996年)では、19世紀以降の中国における急速な社会変動の中で清朝政府に課せられた社会安定のための行政対応について、特にそれが顕著であった中国辺境地域のひとつ、中国東北地域におけるそのありかたを論じた。この中国東北

地域における漢族人口の急増に伴う「中国東北地域の中国化・内地化」という傾向に関しては、従来の研究成果では漢族社会からの視点に多くの注目が集まってきた一方、それに対応した清朝政府の動向に対する注目は十分とは言えず、その状況は現在も大きく変化しているわけではない。

また、古市大輔「満洲人官僚崇実の地方赴任」(『歴史と地理』576, 2004年)では、清

朝政府が旗人官僚であった崇実を盛京に赴任させた意図として彼の四川省における対処法や行政手腕を活用したこと、また、19世紀以降の中国東北地域における他の高級官僚の人事の傾向にも四川省への赴任と盛京への赴任とが非常に密接に関わっていたことなどを確認することができた。これによって、当時の盛京における行政対応に関する検討が他の辺境地域（特に四川省）における行政対応との関わりからも検討できる可能性を持っていたことが推測されたため、従来の研究成果では試みられてはこなかった19世紀後半の中国辺境地域における社会変動の総合的把握の可能性を強く感じるようになった。

さらに、上記の「清代後期の盛京行政とその変容」や、古市大輔「光緒初年盛京行政改革再考」（『アジア・アフリカ歴史社会研究』創刊号、1996年）での検討に際し、19世紀後半の中国東北地域（盛京）における行政改革を断行しつつ当時の社会変動に対応した清朝官僚の崇実が八旗満洲の籍を有し、金王朝の末裔たる完顔氏一族に属する一族の子孫であって、19世紀には父麟慶や弟崇厚と同様に地方高官として中国各地に赴任した経歴を持っていた人物であったことが既に確認されていたが、これによって、彼の一族が如何なる歴史を有し、如何なる活動を行っていたのかという点に対する検討や、彼らの見た19世紀の中国各地、特に辺境地域の社会変動に対する詳細な検討も十分可能であることを感じ、従来の研究成果では殆ど触れられてこなかった「旗人官僚の見た中国社会」という議論が可能であるとの見通しを持った。

そして、こうした19世紀後半の中国辺境地域における社会変動とそれに対する清朝ないしは旗人官僚の対応に関する検討は、本研究計画を立案していた当時、既に試みられ始めていた「清代における旗人アイデンティティとその維持」という視点に基づいた様々な検討とも一部関連を有するものと思われ、このことから、19世紀に地方高官を輩出し、漢族の文化にも造詣の深かった旗人家族が、清代に如何なるアイデンティティを有し、そしてそれを如何に保持したのであろうかという視点の可能性を強く感じた。そのため、こうした視点にも沿いつつ、そこに中国内地の社会変動という新たな視点を加えた検討を試みる余地はまだ十分に残っているという考えに至った。

以上の経緯に基づき、本研究代表者（古市）は、従来の研究成果では殆ど触れられてこな

かった「旗人官僚の見た清代後期の中国社会」という視点から19世紀中国の地域社会史研究における新たな論点を提示しようと試み、また、漢族世界の膨張という姿で現れた中国辺境における社会変動に対する旗人官僚の状況認識についても併せて検討することを想起したのである。

2. 研究の目的

「1. 研究開始当初の背景」で述べた経緯からも確認できるように、本研究の目的は、まず19世紀後半の中国各地、特に辺境地域における社会変動に対する清朝政府の対応や行政改革を検討することに求められるだろう。また、これに加え、八旗満洲籍に属していた旗人官僚の位置や役割という視点から19世紀後半の中国社会とその変容過程についての再検討を試み、さらに、辺境地域における「中国化」ないしは「内地化」といった社会変動を目にした清朝政府や旗人官僚が如何に自身を認識したかという点に対する検討を試みる、という目的を持つことになろう。

本研究はそうした大きな目的を達成するためのその基礎的作業として位置づけられるものであるが、具体的には、その中国辺境の一つであった四川省における清朝の諸政策やその諸政策を実際に担当した旗人官僚の動き、並びにそうした旗人官僚による行政対応の歴史的背景を検討していくことになる。具体的なその検討に際しては、19世紀後半のみならず、清代を通じて著名な官僚を多数輩出した旗人の名家であった完顔氏一族の歴史を主な題材として取り上げることにする。

3. 研究の方法

本研究における具体的な研究方法は、大別して以下の4つに纏められよう。

(1) 麟慶・崇実・崇厚、並びに彼らを輩出した完顔氏一族の先祖の事跡について可能な限り諸史料から確認しつつ、清初以降から19世紀に至る彼ら家族の大凡の歴史的復元を試み、併せて、19世紀後半の中国における政治・社会変動に対する彼ら一族の対応について検討する。

(2) 中国東北地域以外の中国各地（麟慶・

崇実・崇厚らの活動した地域を中心に)、特に崇実が地方官僚として活動した四川省での秩序維持策に関する基本史料書籍群の調査とその内容分析をおこなう。具体的には、当該時期の四川省における清朝行政のありかたを記した档案文書のうち、麟慶・崇実・崇厚らが関わった上奏文や上諭を、既に刊行されている基本史料書籍群からまず抽出し、それらの記載内容を確認する。また、日本国内並びに中国大陸の研究機関に所蔵されている麟慶・崇実・崇厚らの手による(もしくは、彼らに関わる)未刊行史料、及び台湾の研究機関に所蔵されている崇実らの上奏文も可能な限り調査し、それらの諸史料を書写・複写などによって入手する。そのうえで、麟慶・崇実・崇厚らの活動を中心に、中国辺境地域における清朝の諸政策やその政策を実施した旗人官僚の役割に関する記述部分の抽出と整理をおこなう。さらに、この作業に並行して、麟慶・崇実・崇厚らを中心とする完顔氏一族の著作・関連文献の一覧を作成する。

(3) こうした史料調査・整理を通じ、中国辺境地域、特に四川省における清朝政府の諸政策についての検討をおこなう。特に、崇実を例にとりながら、辺境地域(主に四川省)における旗人官僚の動向、中国辺境での地域秩序回復策や地方行政改革とそのあり方、中国辺境における変容過程に対応する八旗満洲籍に属する旗人官僚の存在や役割などに関する検討をおこなう。

(4) 麟慶・崇実・崇厚らの地方官僚としての活動に関する上記のような各側面からの分析・考察を通じ、19世紀後半の中国辺境地域における旗人官僚の位置、中国辺境で施行された地方行政改革とその特徴、その変容過程に対応する八旗満洲所属の旗人官僚の役割などに関する総合的な検討を試みる。

4. 研究成果

上記の「3. 研究の方法」で記した4つの具体的な研究方法にしたがいながら、本研究での成果の概要を記す。

まず、その4つの研究方法以外の作業であり、本研究を推進していく過程で大いに参考になった作業の一つとして、清代後期以降の中国における社会・経済変動の具体的な状況に関する複数の英文著書の内容を検討する機

会に恵まれた。これによって、本研究に密接に関連する清代後期の社会経済変動に対する清朝国家の政治的対応とその基本方針やその変動過程自体に関するさらなる詳細な理解を得たが、その検討結果から生まれた成果の一つとして、清代後半以降の華北地域における社会経済の変容過程を論じた Lillian M. Li, *Fighting Famine in North China: State, Market, and Environmental Decline, 1690s-1990s*, 2009. に対する書評を公表した。

(1)については、麟慶・崇実・崇厚らによる年譜、日記、その他各種文書の記載の整理とその内容把握を行い、麟慶・崇実・崇厚並びに彼らを輩出した完顔氏一族の先祖の事跡について確認した。さらに、清初以降から19世紀に至る彼ら完顔氏一族の大凡の歴史的復元と、19世紀後半の中国における政治・社会変動に対する彼らの対応についての検討をおこなったうえで、その成果の一部を「崇実・崇厚の諸子とその配偶者に関するノート」として公表した(そこで論じた具体的内容については、当該論文を参照いただきたい)。

(2)については、19世紀清朝の地方行政に関わる記載を有する上諭档その他各種の漢文檔案のなかから、中国各地における麟慶・崇実・崇厚らの地方官僚としての活動について記した上奏文や上諭の抽出をおこなった。特に、崇実が地方官僚として活動した四川省での秩序維持策に関する基本史料書籍群のなかから、当該時期の四川省における清朝行政のありかたを記した諸史料や、麟慶・崇実・崇厚らが関わった行政対応について記した上奏文や上諭などを抽出した。さらに、麟慶と崇実が地方官僚として活動していた時期に著した上奏文の草稿(奏稿)を入手し、その内容把握をおこなった。他方、東洋文庫や東京大学・一橋大学・京都大学などの国内の研究機関、並びに中国大陸の研究機関(北京、中国国家図書館)に所蔵されている崇実の手による(もしくは麟慶・崇実・崇厚らに関わる)稿本や抄本などの未刊行史料や、台湾(台北、国立故宫博物院史料文献館)に所蔵されている麟慶・崇実・崇厚らの手による上奏文(主に宮中档案)を現地で調査・収集し、それらを筆写・複写によって入手した。さらに、上記の史料調査・収集の成果の一部として、完顔氏一族(特に麟慶・崇実・崇厚)による著作や当該一族に関する記載を有する諸文献を整理した(未刊)。

(3)については、(2)の史料調査・整理を踏まえて、四川省を始めとする中国辺境地域における清朝政府の諸政策についての検討をおこなった。具体的には、中国各地、特に崇実が地方官僚として活動した咸豊・同治年間の四川省における秩序維持策やその他の清朝による行政処理、並びにその行政処理における崇実の旗人官僚としての役割について若干の検討をおこなった。まだ公刊する段階までには至っていないが、この検討を通じ、内モンゴルやチベットなどの非漢族居住地域における各種儀礼への派遣や、陝西・四川両省における官僚不正事件の処理のための特使としての派遣といった崇実の異動人事においては、満洲旗人としての崇実個人ないしは完顔氏一族と咸豊帝との繋がりが少なからず影響を及ぼしていたこと、また、崇実が四川省で行なった数々の行政処理においては、漢人官僚が担当していた地方行政の監視や、八旗軍の指揮を通じた四川省での軍事的混乱状況の回復と地域秩序の形成、さらに、成都駐防八旗軍の立て直しといった旗人官僚が専ら担うべき役割のあったことなどを窺うことができた。

(4)については、麟慶・崇実・崇厚らの地方官僚としての活動に関する分析と考察を通じ、19世紀後半の中国辺境地域における旗人官僚の位置、中国辺境で施行された地方行政改革とその特徴、その変容過程に対応する八旗満洲籍の旗人官僚の役割などに関する総合的な検討をおこない、19世紀後半の中国辺境地域での政治・社会変容に対応した旗人官僚の役割についても若干の仮説的考察を試みた。ただ、本研究で試みた研究は現段階では個別的な事例研究の段階にとどまっており、今後もさらなる研究成果を積み重ねていく必要があると考えられるため、この部分に関する検討結果についても、現在のところ公表する段階までには至っていない。今後、機会を得てあらためて刊行・公表したいと考えている。

以上のような清代後期の中国辺境における政治・社会変動のなかの旗人官僚の位置づけや役割を論じようとした本研究での作業や検討は、当時の中国における政治・社会変動とそのありかたを多面的に解明するための一つの方法であると信じているが、少なくとも、そのありかたを総合的に捉えていくためのその出発点となるものであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① Daisuke Furuichi, [Book Review] Lillian M. Li, *Fighting Famine in North China: State, Market, and Environmental Decline, 1690s-1990s*, 2007, in *The International Journal of Asian Studies*, volume 6, issue 01, 116-119, 2009, 査読無

② 古市大輔, 崇実・崇厚の諸子とその配偶者に関するノート——清末中国における完顔氏の婚姻関係の一齣——, 金沢大学文学部論集 史学・考古学・地理学篇, 第28号, 1-20, 2008, 査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

古市 大輔 (FURUICHI DAISUKE)

金沢大学・歴史言語文化学系・准教授

研究者番号：40293328

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし